

はじめに

人文学部長 上野誠治

この『履修の手引き』は、その名の通り、みなさんがこれから勉学を進めていく上で必要となる科目の履修方法について、その概略を取りまとめたガイドブックです。できるだけ早い機会に熟読し活用してください。

北海学園大学の教育体系は、各学部が設定する専門教育科目と、その土台となる一般教育科目から構成されています。学問とは、先人たちが築き上げてきた知識の集積の上に、新しい知見が加えられ、さらに発展していくものです。一般教育科目では、幅広い分野の基礎科目が用意されていますので、必要に応じて履修し、専門教育科目を学ぶ際に求められる、知的な基礎体力作りを心がけてください。ここには、基礎科目（言語、身体、情報）、教養科目（人文科学、社会科学、自然科学、北海道学）、キャリア形成科目、体験型科目などの科目群があり、それぞれがさらに細分化され、みなさんのニーズに応えられるような多種多様な科目構成となっています。上級年次になってから、必要と感じたときに履修することも可能です。また、一部の科目を除き、他学部の学生と一緒に履修することになりますので、学部の垣根を越えて切磋琢磨するよい機会にもなります。

一方、人文学部の専門教育科目は、人文学のより専門的な知識や技能を学ぶための科目群から構成されています。ここには、基幹科目、導入科目、英語科目、基礎・展開科目、日本文化科目、英米文化科目、課外学修科目などがあり、それぞれの下にさまざまな科目が配置され、多様な学びが可能になっています。人文学部では、自分が最も興味・関心をもつ分野の科目を学びの柱に据えつつ、他方で、蝸壺体質に陥ることがないように、より広範囲な学びも求められます。今は無関係・無意味と思われることが、あるとき自分の専門と意外な連関を示すこともよくありますので、端から毛嫌いするのではなく、まずは何事にも興味・関心を寄せるような学問態度が大切です。

新入生のみなさんは、こうした多様な科目群から、4年後の将来を見据えつつ、自分に合う科目を履修していくことになります。大学では、各人が自らの責任で履修する科目を選択し、学びが始まりますが、この履修する科目の選択と決定が、大学での勉学の第一歩となります。人文学部の学生となり、日本の文化または欧米の文化を学ぶことを通じて、どのような大学生活を過ごし、その先にどのような将来像を描いていくのか、また、その実現に何が必要となるのかを熟考し、自らの時間割を作成してください。

2年生は、新入生だった時に抱いた、学びに対する抱負を改めて思い返してください。自分は何を目指して人文学部に入ったのか、どのような将来像を抱いていたのか。おそらく、すべてが順調とは行かなかったことでしょう。また、この1年間で、目指していたものに変化が生じた場合もあるかもしれません。いずれにしても、足りなかった点があれば反省し、必要があれば進むべき方向性を微修正してください。その際、自分が目指すものをより明確にするためにも、一層広く深く、人文学の学びに精進してください。

3年生は、いよいよ大学生活の後半に突入します。また、専門演習での取り組みも始まります。この1年の学びが、次年度の卒業研究や就職活動に直結する大事な学年です。特に就職活動では、人文学部で何を学び、所属ゼミで何を研究したかを、自らの言葉で説明するように求められます。卒業研究のテーマや、将来の進むべき方向性を、所属する少人数ゼミの切磋琢磨する学びの中から是非見つけ出してください。

4年生は、就職活動が本格化する一方で、大学4年間の集大成となる卒業研究の完成が求められます。人文学部で学んだ幅広い教養と文化的素養を武器に、自信を持って就職活動に取り組んでほしいと思います。また、卒業研究は、自ら課題を設定し、先人の研究を十分に踏まえた上で、自分なりの視点から課題に切り込み、独自の結論を導くという高度に知的な活動です。それは大学という高等教育機関で学ぶみなさんにとって、自分が大学生であることを最も実感できる機会でもあります。

人文学部は、**Faculty of Humanities** と英語表記されるように、人間性 (humanity) の探求を目標とします。極めて深遠なテーマですが、各人が「人間とは何か、自分とは一体何者なのか」を自らの問題として考え、それぞれの目標に向かって一歩ずつ前進していくことを期待します。